

大曲皮膚科ニュース

2006年2月1日号

アトピー性皮膚炎の顔の赤みによく効く漢方薬とは？

アトピー性皮膚炎の多くはステロイド外用剤や保湿剤などのオーソドックスな治療でコントロールすることが出来ますが、特に思春期以降の顔の赤みは治療が難しいことも多いです。アトピーに使われる漢方薬は、しっしんの特徴や体質に合わせて使うことによって良い効果が出ます。

☆よく使われる処方は？☆

◎治頭瘡一方（ぢづそういっぽう）～じくじくした顔や頭のしっしんに使われます。

◎消風散（しょうふうさん）～じくじくしたしっしんが全身にある時に使われます。

◎十味敗毒湯（じゅうみはいどくとう）～虫刺されが化膿した時や、にきびが混じっているしっしんに使われます。

◎排膿散及湯（はいのうさんきゅうとう）～じくじくしたしっしんにばい菌が付いた時に使われます。

◎桂枝加黄耆湯（けいしかおうぎとう）～上半身のあせもや、汗をかいたあとに悪くなったしっしんに使われます。

◎白虎加人参湯（びゃっこかにんじんとう）～ほとっているが、じくじくしていない顔の赤みに使われます。

◎黄連解毒湯（おうれんげどくとう）～やはりほとっているが、じくじくしていない顔の赤みがあり、さらにいらいらして眠れなかったり不安な時に使われます。



◎梔子柏皮湯（ししはくひとう）～目の周りに赤みがある時に使われます。

◎荊芥連翹湯（けいがいれんぎょうとう）～長くしっしんが続いたために、全身に赤みに加えて黒褐色の色素沈着がついた時に使われます。

◎温清飲（うんせいいん）～長くしっしんが続いたために、全身に赤みに加えて黄褐色の色素沈着がついた時に使われます。

◎六味丸（ろくみがん）と当帰飲子（とうきいんし）～どちらも乾燥した赤みに使われます。

漢方薬についても当院で処方しております。気軽にご相談ください。

☆軟膏がべたべたして嫌な方へ☆

アトピーなどの乾燥した皮膚の病気には、しっとりさせるワセリンやステロイド軟膏（大部分がワセリンで出来ています）がぴったりです。でもべたべたすると不快な方は試していただきたい方法があります。お風呂または、シャワーの直後に水が乾かないうちに洗い場で、水滴の上から薄く軟膏を伸ばすと、水滴の上には、非常に伸びます。少し涼しい所に出て、皮膚の皺に沿ってさらによく擦り込むと数分後にはべたべたしなくなりサラサラに感じられるようになります。乾燥した皮膚の表面には沢山の割れ目が出来ていますので、毛細管現象により水とともにワセリンも浸透する結果割れ目をワセリンが埋める一方で表面はサラサラな状態で保湿が可能です。ステロイドの軟膏の使用量もすくなくてすみます。

☆掻かないで低温刺激を☆

いけないことと知っていても掻くことは気持ちがよいものです。血が出て痛いほど強くかくと皮膚の感覚神経が壊れてしまったり、痛みの刺激で感覚神経が麻痺するのでかゆみがなくなります。また、傷が付かない程度に繰り返しかくことで、長時間快感を得られることで満たされることもあるでしょう。かかないで済む方法はないでしょうか？

痛みの刺激の代用になるのは低温刺激です。ぬるいシャワーなどの水道水をかゆい皮膚に20-30秒間当てるだけで、かゆみが抑制されることがあります。皮膚にとって低温刺激は、とても優しいものです。もちろんその後は、医師が処方した付け薬か保湿剤をつけることを忘れないでください。

い。

大曲皮フ科 住所：〒061-1272 北広島市大曲末広 1 丁目 2-1 (セ
リオ 1F)

電話：011-376-2000
梅津 修

記：院長